

# 第11期東京都生涯学習審議会

## 第8回全体会 審議資料

令和2年11月30日

(オンライン会議)

# 第8回全体会 次第

1 開会

2 議事

(1) 事例紹介

「NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ①」

岩切準さん(認定NPO法人夢職人 理事長)

(2) 審議

3 今後の予定

4 閉会

## 2 議事

### (1) 事例紹介

「NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ①」

岩切準さん(認定NPO法人夢職人 理事長)

# 第11期 東京都生涯学習審議会

～第8回全体会 資料～

令和2年11月30日

認定特定非営利活動法人 夢職人

理事長 岩切準

# プロフィール



**岩切 準**  
**(いわきり じゅん)**

- 高校時に江東JLCでジュニア・リーダー活動に従事し、大学時にジュニア・リーダー養成指導者を務める。
- 区の世界教育事業・青少年育成事業の縮小の方向性に疑問を感じ、また、事業や財政の面から行政から独立した民間組織を必要性を感じ、ジュニア・リーダーOBの有志メンバーが中心となり、大学在学中の2004年に夢職人を設立。
- 大学院修了後の2008年にNPO法人化して活動を本格し、2018年に東京都より認定を受ける（認定NPO法人）。

## <主な経歴>

認定NPO法人夢職人 理事長（2004年～）

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 理事（2014年～）

NPO法人全国検定振興機構 理事（2015年～2020年）

NPO法人教育支援協会 理事（2016年～2018年）

公益社団法人全国公民館連合会 事業推進グループ（2006年～2011年）

東洋大学大学院社会学研究科社会心理学専攻 修了  
（専門：社会心理学、社会教育、ユースワーク）

# 団体概要



名称 認定特定非営利活動法人夢職人

設立

- ・ 任意団体（社会教育関係団体）：2004年1月
- ・ 特定非営利活動法人認証取得：2008年4月21日
- ・ 登記申請・法人設立：2008年4月25日
- ・ 認定取得：2018年9月6日

目的 子どもから大人まで幅広くまた多くの人に対して、社会教育に関する事業を行い、地域社会における人と人とのつながりを育むとともに、ひとりひとりの社会力の育成に努め、もって地域又は社会全体の利益に寄与することを目的とする。

種類

- 1.社会教育の推進を図る活動
- 2.子どもの健全育成を図る活動
- 3.以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

事業内容

- 1.社会教育に関する企画・運営及びそれを支援する事業
- 2.社会教育に関する人材の交流及び育成を図る事業
- 3.社会教育を推進するために必要な普及啓発及び調査研究事業
- 4.その他目的を達成するために必要な事業及び各事業に附帯する事業

所在 東京都江東区亀戸6丁目54番5号 小川ビル2階  
TEL：03-5935-7302 FAX：03-5875-0507

役員

理事長：岩切準  
理事：山田友紀子、横山優、本多雄一、阿部聡子  
監事：慶野誠（公益社団法人全国公民館連合会事務局次長）

職員 常勤職員3名、ボランティア137名（2020年3月現在）

# 目指していること

家庭

Vision：生まれ育つ環境に関わらず、  
心身ともに健やかに成長できる社会

Mission：子どもと若者の学びや育ちを社会全体で支える

学校

地域



# コンセプト



自然体験・野外活動

スポーツ  
レクリエーション

**体験**

社会・仕事

科学・文化・芸術

**「子どもたちの体験や学びを支え、社会で活躍できる力を育む」**

2004年から東京都江東区を中心に、学校外・地域社会で子どもや若者の成長を支援する教育活動に取り組んでいます。



# 取り組んできたこと

● = 現行    ○ = 終了



## ●地域子ども体験活動クラブ「キッズクラブ」(2004年～)

首都圏の小学生・中学生を対象に、多様な体験活動・学習を行う事業  
通年で実施され、週末の日帰り、連休・長期休みに宿泊（キャンプ）を行う。

## ●ユースボランティア(2004年～)

10代後半（高校生）～20代（若手社会人）を中心としたボランティアの養成。  
地域教育、過疎地域での援農、災害復旧支援等の活動に従事。

## ●プレーパーク(2009年～)

都立木場公園での幼児・親子、小学生を主な対象とした冒険遊び場づくり。

## ●ウェブメディア「Eduwell Journal」(2013年～)

子どもや若者の支援に関する教育や福祉などの各分野の実践家・専門家が記者となり、それぞれの現場から見えるリアルな状況や専門的な知見を伝える。

# 取り組んできたこと

● = 現行    ○ = 終了



## ●自然体験活動「ネイチャーキッズ」(2017年～)

首都圏の小学生・中学生を対象に、旅行会社(第二種旅行業)や全国各地のNPO団体・企業と連携して行っている自然体験活動推進事業。

## ●子どもの食の支援「Table for Kids」(2020年～)

経済的な事情を抱える親子(ひとり親家庭、低所得家庭等)に対して、地域の飲食店と連携し、デジタル通貨を活用した「食」の支援を行う。

## ○キャリア教育プログラム「下町商人スクール」(2008年・2009年)

小学校高学年・中学生を対象とした学校外でのキャリア教育プログラム。

## ○就労支援プログラム「BizAcademy」(2015年～2017年)

salesforce.org様とIT企業様と連携で実施。無職・非正規雇用の若者に対して、就職活動に必要なトレーニングを行い、就職までをサポートするプログラム。

# キッズクラブ (地域子ども体験活動クラブ)



## < 共育目標 >

- ・ 多様な人たちとの信頼関係を築き、互いに協力し、助け合える人になる。
- ・ 探究心や向上心を持ち、自ら学び、考え、行動できる人になる。
- ・ 豊かな感受性と表現力を持ち、創意工夫できる人になる。



# デイプログラム「あそびの達人」



宝探しアドベンチャー



理科・実験教室



アスレチック



野外料理



アート・創作活動



スポーツ



# 連休・長期休みの子どもキャンプ



清流での川遊び



海の生き物探検



流しそうめん



スキー



テント生活



農業体験

# ユースボランティア

次の社会の担い手・親となる世代  
(高校生、大学生、若手社会人)



応募・申込み

研修・トレーニング  
事前・事後のフォローアップ



キッズクラブ  
(体験活動)

プレーパーク  
(遊び場づくり)

過疎地の援農  
(ワークキャンプ)

災害復興支援



# ユースボランティア



## サポートスタッフ

### 子ども達の活動を支える

事前の打ち合わせを行い、各種活動へ参加する。  
それぞれに割り振られた役割を担って、活動に取り組む。

## プロジェクトスタッフ

### 子ども達の活動を作り出す

デイプログラムやキャンプの企画・運営の中心を担う。  
企画書、広報、スケジュール管理、準備、報告書など

## コミュニティ マネージャー

### ボランティア組織をマネジメントする

団体のボランティアスタッフが円滑に活動できるように連絡調整を行う。  
各種活動の計画の作成、プロジェクトマネジメント、人事採用・研修など

## インターン ・ 職員

### 法人管理・業務執行の責任者

総会で承認された事業計画に基づいて、各種事業に関する業務を実施する。  
法律や各種定款規定に従って、法務・会計など法人管理に関する業務を行う。

## 理事

### 組織全体の統括者

総会で承認された役員で構成され、組織全体の年間事業計画や予算の審議、  
定款に基づいた各種規定の審議、事務局運営を管理・総括する。

# ユースボランティア



- 活動に取り組む中で、地域・社会課題に対する認識を高め、社会人基礎力を大幅に向上させることができる。
- 「ボランティア」というマネジメントの難しい環境の中で、課題解決に取り組みリーダーシップを磨くことができる。

empowerment

行政・自治体

NPO

民間企業





# 現場から見る「青少年教育」の課題



- **【認知】青少年教育（学校外）の場と機会の認知度が低い**
  - 「何かある前に」存在と魅力を知ってもらう必要がある。
  - 家庭や学校での問題が生じた際に、第三の支援者となれる。
  - 社会教育に切れ目はなく、幼児期・児童期からのつながりが重要。
- **【支援】青少年教育を推進する団体への支援が不足している**
  - はじめる団体はあっても継続が非常に困難である。
  - 規模も小さく、専門性のあるスタッフが育てられない。
  - ユニバーサル・アプローチを行う団体は、「余暇・趣味」と見られ、寄付や助成等を受け難く、参加者負担の事業収入でしか成り立たない。

**早期の段階で青少年教育の認知度を高め、継続的な事業運営ができる団体を増やすためのサポートが必要。**

# 現場から見る「体験活動」の課題

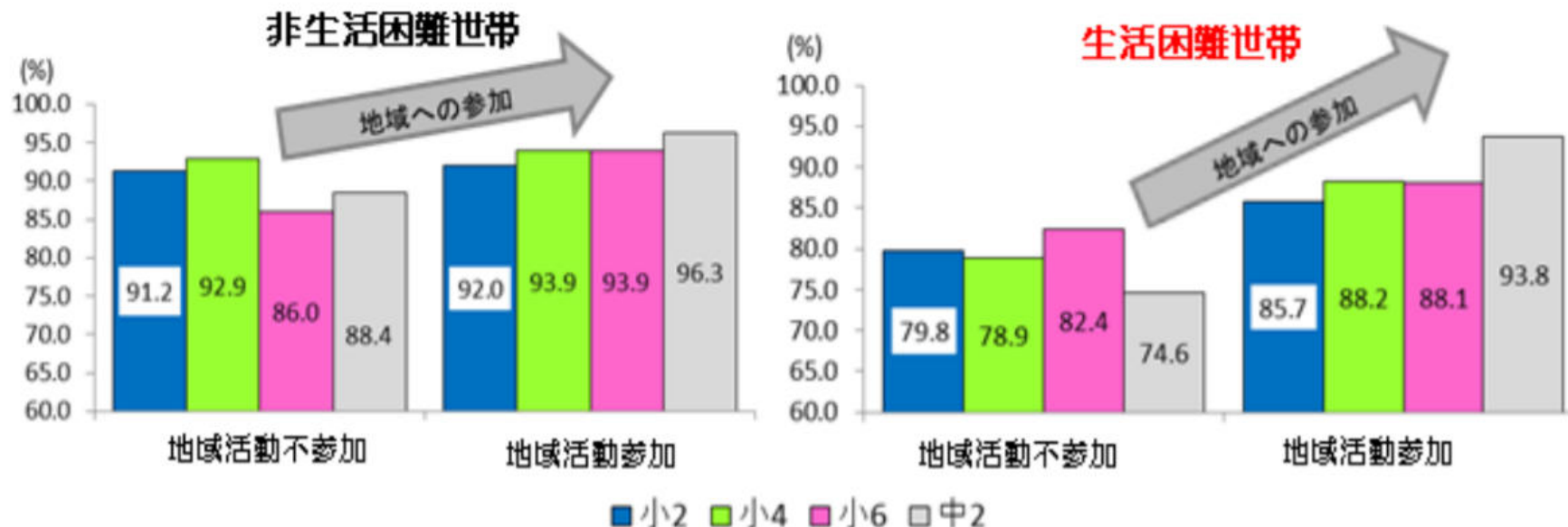


- **【環境】** 身近に体験活動を行える「場」があまりに少ない
  - 野外でも施設でも場が少なく、集中するため予約が困難。
  - 民間施設では、利用上の制約も多く、価格もとても高い。
- **【費用】** 経済的な事情から体験活動に参加できない子も多い
  - 「家庭の所得格差 = 子どもの体験格差」がすでに生じている。
  - 青少年のボランティア活動への参加についても同様である。
  - 多くの子どもや若者が参加できるように参加費の補助が必要

**非認知能力や自己肯定感等への関心の高まりによって、体験活動へのニーズは年々高まっているが、環境や経済的な問題等から制約が生じている。**

# 足立区 子どもの健康・生活実態調査

【逆境を乗り越える力（自己肯定感・自己制御能力など）がある子どもの割合】



子どもが**地域活動（近所のお祭り・子ども会・児童館等の教室など）**に参加していると、**逆境を乗り越える力を培える**可能性がある。特に**生活困難世帯で顕著**

「登校しぶり」「朝食欠食」「5本以上のむし歯」などへの影響も緩和傾向にあり、高学年では「幸福度」も高くなる

※行政事業レビュー（2020年秋のレビュー）の資料より引用

# 現場から東京都に望むこと



- 青少年教育の推進団体向けのコワーキングスペースの開設
- 都立公園等を活用した体験活動が身近に推進できる環境づくり
- 多摩西部や伊豆諸島等の東京都内での自然体験活動の推進・支援
- 経済的な事情を抱える子どもに対する体験活動への参加費用の補助
- 若者（学生）のボランティア等の社会活動に関する費用の補助

東京都が直接的に活動を行うのではなく、①継続的に活動を推進できる団体が育つための環境の整備、②子どもや若者が参加しやすくするためのサポートが必要。

## 2 議事

### (2) 審議

2つの観点を中心に御意見をお願いします。

- ・ユニバーサルアプローチの重要性
- ・青少年教育振興における東京都に期待される役割

### 3 今後の予定

第9回 令和2年12月17日〔木〕  
18時から20時

事例紹介

NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ②  
一般社団法人ウィルドア

第10回 令和3年 1・2月(調整中)

## 4 閉会

ありがとうございました。